



追加型投信 / 国内 / 株式

三菱UFJ 日本株オープン「35」

ファンド情報提供資料
データ基準日: 2022年3月31日

当ファンドの運用状況と今後の運用方針等

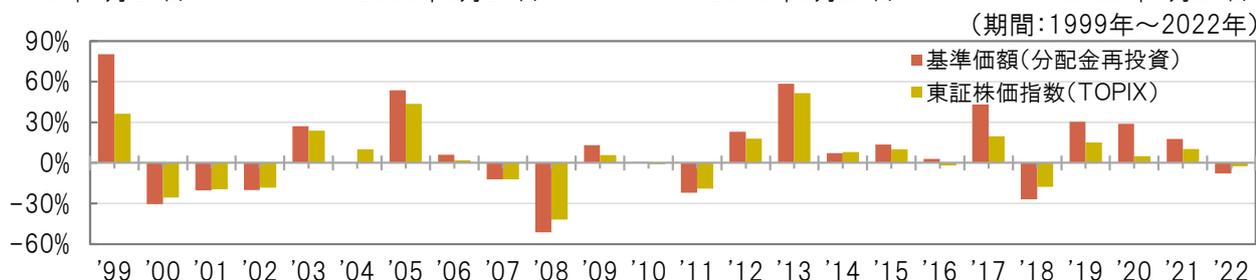
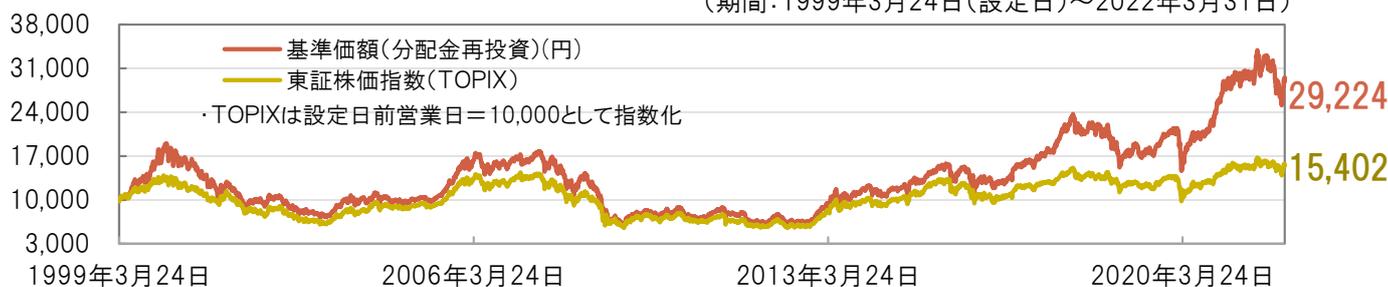
平素は「三菱UFJ 日本株オープン「35」」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。
本資料では、当ファンドの運用状況および今後の運用方針等についてご説明いたします。

当ファンドの設定来の運用状況(年間騰落率の推移)

- 当ファンドは、主に中長期的な事業の収益性・成長性が見込まれ、かつ十分な投資成果が期待できると判断し選別した「35銘柄」に投資することで、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)を上回る投資成果をめざしています。設定来の当ファンドの年間騰落率をみると、TOPIXを上回った年は24回中15回(63%)でした。また、基準価額(分配金再投資)は設定時の約3倍に成長しており、着実に投資成果を積み上げてきました。
- 直近10年間(2012年～、2022年は3月までのため除く)の騰落率をみると、TOPIXを上回った年は10回中8回と高い頻度で超過収益をあげました。また、基準価額(分配金再投資)はコロナ・ショック(2020年3月)後に大きく上昇しました。

当ファンドのパフォーマンス(上段)と年間騰落率(下段)

(期間: 1999年3月24日(設定日)～2022年3月31日)



・東証株価指数(TOPIX)は当ファンドのベンチマークです。・パフォーマンス: 基準価額(分配金再投資)は、1万口当たりであり、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。・年間騰落率: 1999年は3月23日(設定日前営業日)～12月末の値を使用しており、10,000を起点としています。2022年は、3月末までの値です。当ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。

「Morningstar Award “Fund of the Year 2021”」
国内株式型 部門

優秀ファンド賞 受賞

おかげさまで、三菱UFJ 日本株オープン「35」が、
モーニングスターアワード「ファンド オブ ザ イヤー 2021」の優秀ファンド賞を受賞いたしました。

当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2021年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。国内株式型 部門は、2021年12月末において当該部門に属するファンド897本の中から選考されました。Morningstar Award “Fund of the Year 2021”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。
また、税金・手数料等を考慮していません。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

過去半年間の市場環境と当ファンドの運用状況（2021年10月～2022年3月）

■市場環境

- ・ 当該期間のTOPIXは4%下落しました。
- ・ 2022年3月上旬までは、新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)のワクチン接種普及による経済正常化への期待などから一時的に上昇する局面もありましたが、新型コロナの変異株「オミクロン株」の拡大、米国の金融引き締め懸念、ロシア・ウクライナ情勢を巡る警戒感など様々な不透明要因から、国内株式市場は下落基調で推移しました。
- ・ 2022年3月末にかけては、ロシア・ウクライナ情勢への警戒感がやや後退したことや、円安米ドル高が進み投資家心理が改善したことなどから反発したものの、これまでの下落を取り戻すには至りませんでした。

■当ファンドの運用状況

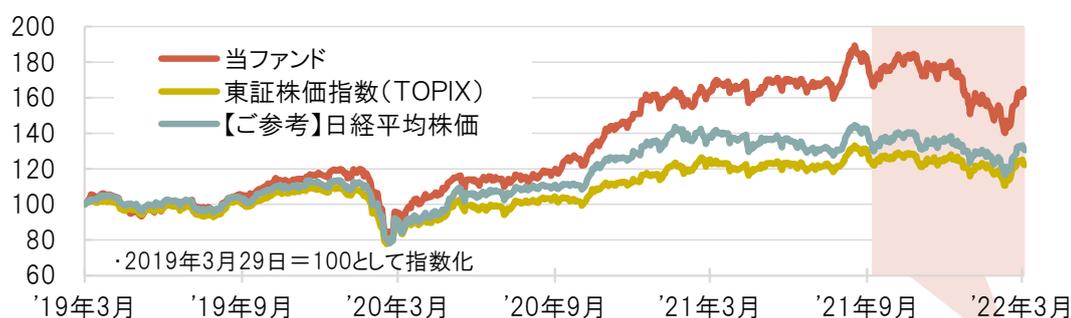
- ・ 当該期間の当ファンドの基準価額(分配金再投資)は8%下落し、TOPIXを下回りました。
- ・ 業種別にみると、ベンチマーク対比でアンダーウエイトしていた卸売業や海運業がマイナスに影響しました。
- ・ 個別銘柄では、デクセリアルズ(化学)や山一電機(電気機器)、富士電機(電気機器)などがプラスに寄与した一方で、米国の金融引き締め懸念からSansan(情報・通信業)やそーせいグループ(医薬品)などのグロース銘柄、自動車減産からスミダコーポレーション(電気機器)などがマイナスに影響しました。

＜主な投資行動＞

- ・ 半導体関連やEV関連など、国内外の決算で好業績が確認できた銘柄を高位で保有していました。しかし、原材料価格の上昇など先行き不透明感を考慮し、2022年3月末にかけてウエイトを引き下げました。
- ・ ITサービスなどのDX(デジタルトランスフォーメーション)関連銘柄は業績も良好かつ大きな潮流と実感していたため、ベンチマーク比オーバーウエイトとしていました。しかし株価上昇銘柄については株価バリュエーション(割高・割安の度合い)の観点から2021年末にかけてウエイトを引き下げました。2022年以降は、株価下落により逆に中長期的な投資魅力が向上したと判断して同分野の組入ウエイトを引き上げました。

・ 上記は当ファンドの理解を深めていただくことを目的としており、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。業種は、東証33業種で分類しています。

直近3年間の当ファンドのパフォーマンス（期間：2019年3月29日～2022年3月31日）



半期毎の騰落率	2019/4-2019/9	2019/10-2020/3	2020/4-2020/9	2020/10-2021/3	2021/4-2021/9	2021/10-2022/3
当ファンド	4%	-9%	25%	39%	8%	-8%
東証株価指数(TOPIX)	0%	-12%	16%	20%	4%	-4%
【ご参考】日経平均株価	3%	-13%	23%	26%	1%	-6%

・当ファンド：基準価額(分配金再投資)を使用。運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。当ファンド(分配金再投資)の騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。・TOPIXは当ファンドのベンチマークです。日経平均株価は、当ファンドのベンチマークまたは参考指数ではありませんが、国内株式の値動きを説明するために表示しています。表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

今後の市場見通しと運用チームの着目点（2022年3月31日時点）

■今後の市場見通し

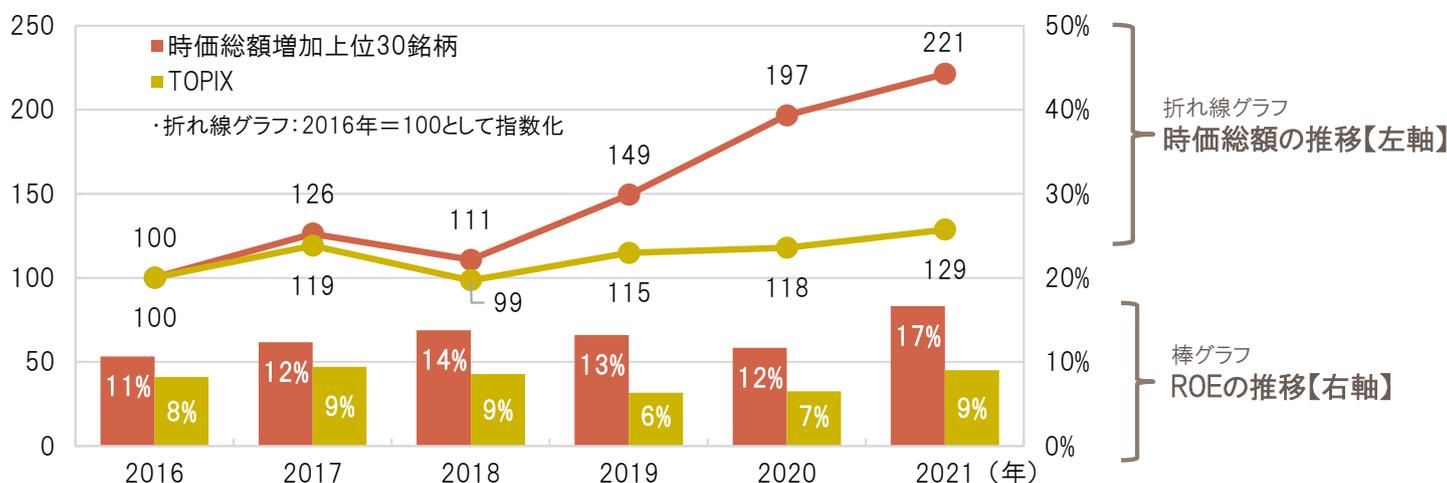
- 日本株市場は短期的にはやや不透明感が否めませんが、中長期的にはポジティブな要因が多いと考えています。今後の国内外経済は、「脱炭素社会」を目指したイノベーションの活性化、「経済のデジタル化」に向けた新たな需要の顕在化などが牽引していくと捉えています。
- 東証区分再編やESG投資の拡大が、企業に効率的な経営を促す契機となり、これまで欧米企業に対して見劣りしていた国内企業のROE（自己資本利益率、収益性をみる指標のひとつ）の改善などが期待されます。結果として、事業成長と収益構造改革の両面から企業価値が向上し、株式市場を底上げする可能性を想定しています。
- 短期的には、炭素税引き上げによる資源高がもたらす物価高や、金利上昇による需要抑制、それらに伴う株式市場の調整局面などが懸念されますが、長い目で見れば大きな投資機会につながるものと考えています。

■運用チームの着目点

- 下記グラフの折れ線は、TOPIX（黄色）の時価総額と、時価総額増加上位30銘柄*（橙色）の時価総額を、2016年を100として算出したパフォーマンス推移です。この間、TOPIXの時価総額は164兆円増加（上昇率29%）しましたが、この30銘柄の増加額132兆円（上昇率121%）が、約8割を占めました。
- 下記グラフの棒グラフは、TOPIXと上記の30銘柄のROEの推移です。TOPIXのROEはほぼ横ばいにとどまる中、同30銘柄のROEは2016年の11%から2021年は17%へ約5割改善しました。これは、経営効率が改善した結果、企業価値が向上し株式市場全体を牽引したと考えられます。
- この30銘柄も、5年前のROEは現在のTOPIXに近い水準でした。国内株式市場にはこうした30銘柄の予備軍、すなわち「ダイヤの原石」が多く隠れているのではないかと考えています。この伸びしろのある市場から有望銘柄を発掘して、アクティブ運用の醍醐味を受益者のみなさまと共有するため、今後も徹底したリサーチを行う所存です。

・ 市況の変動等により、上記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。

時価総額とROEの推移（2016年～2021年、年次）



（出所）Quickのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

*時価総額増加上位30銘柄：東京証券取引所に上場する銘柄のうち、時価総額の増加額（2021年末-2016年末）上位30銘柄。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。

・ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

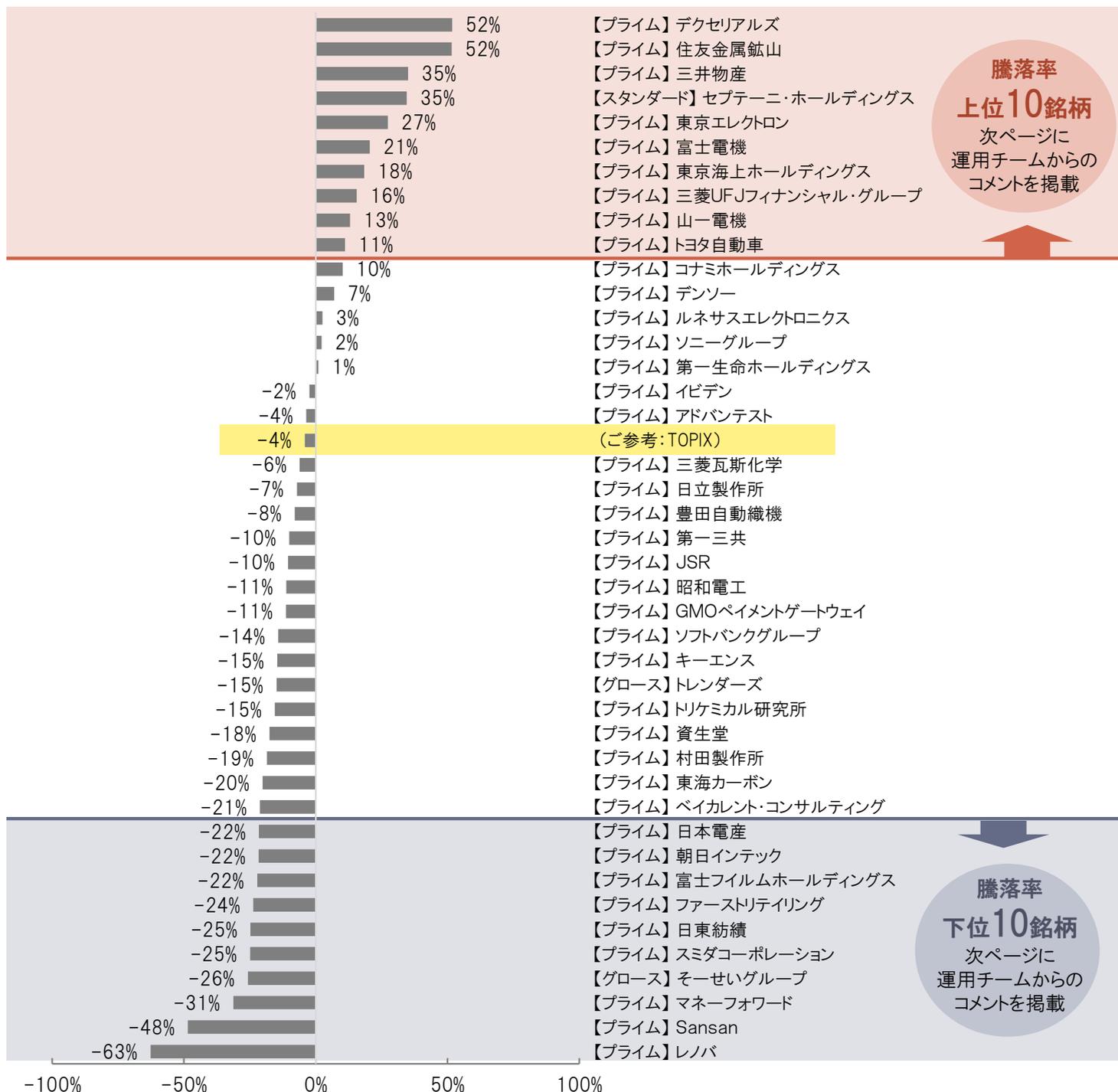
三菱UFJ 日本株オープン「35」

【ご参考】組入銘柄の騰落率(2021年9月30日～2022年3月31日)

当ファンドが組み入れている銘柄について、ご紹介いたします。

下記は、2022年3月31日時点で当ファンドの組入全銘柄(42銘柄)とTOPIXについて、直近半年間における株価の騰落率を算出し、降順に並べたものです。

※当ファンドにおける保有期間等を考慮したのではなく、当ファンドへの寄与度、運用成果とは異なります。



騰落率
上位10銘柄
次ページに
運用チームからの
コメントを掲載

騰落率
下位10銘柄
次ページに
運用チームからの
コメントを掲載

(出所)Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

・【プライム】【スタンダード】【グロース】は、それぞれ2022年4月4日時点で上場している市場を記載しています。・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・上記は当ファンドの理解を深めていただくために記載したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

詳しく知りたい方へ：組入全銘柄の概要は月報に掲載

当ファンドの月報には、前月末の組入銘柄一覧と銘柄の概要を開示していますので、あわせてご覧ください。月報は弊社HPでご覧いただけます。
(<https://www.am.mufj.jp/fund/119901.html>)

騰落率上位10銘柄

銘柄名	運用チームからの銘柄紹介コメント(2022年3月31日時点)
デクセリアルズ	旧ソニーケミカル。付加価値の高い電子部材・材料が業績を牽引し、2022年3月期は116%営業増益を計画。スマートフォンなどのデジタル製品に加え、自動車分野でも採用が拡大中。
住友金属鉱山	銅やニッケルなど非鉄金属の鉱山開発に注力し、世界の非鉄リーダーをめざす。非鉄市況の上昇が収益を押し上げ。
三井物産	強みを有する原油や鉄鉱石などの資源分野が市況上昇により好調。自動車や化学など非資源ビジネスも順調に推移。
セブテーニ・ホールディングス	主にネット広告事業を手がける。広告市況の回復などを背景に、2021年10-12月期は61%営業増益。2021年10月、電通グループとの資本業務提携を深化。電通デジタルとの協業で、電通顧客へダイレクトに魅力的なデジタル案件を提案するなど、将来大きなビジネス機会を見込む。
東京エレクトロン	世界的な半導体不足を背景に、半導体業界の設備投資が活発化。半導体製造装置大手の同社の2021年3月期の業績は過去最高。
富士電機	省エネ・省電力が期待される同社製品「パワー半導体」が、EV向けや産業分野向けに大きく伸長。
東京海上ホールディングス	2021年度は当期利益を上方修正するなど、業績は好調に推移。積極的な株主還元も継続。
三菱UFJフィナンシャル・グループ	2021年4-12月の当期純利益は前年比76%増の1兆円超えと、期初の通期計画8,500億円を超過。
山一電機	同社の主力である半導体の検査用ソケットは半導体製造の検査工程に使われ、半導体先端プロセスの進化や検査工程の重要性の高まりなどから、半導体需要の拡大以上に好調に推移。
トヨタ自動車	潤沢なキャッシュフローで電動化戦略と、株主還元を同時並行で実施。

騰落率下位10銘柄

銘柄名	運用チームからの銘柄紹介コメント(2022年3月31日時点)
日本電産	2030年度売上高10兆円企業に向けたビジネスモデル変革を強力に推進中。
朝日インテック	医療機器の開発等を行う同社の2021年7-12月上旬決算では、カテーテル治療(狭くなった血管を広げる治療)用製品などが中国・欧州を中心に大幅増加。
富士フィルムホールディングス	4つの事業領域のうち、「ヘルスケア」や「マテリアルズ(産業の効率化などを通じた環境課題への取組み)」に積極投資し、多角化を活かした成長が続く見通し。
ファーストリテイリング	商品開発・生産・物流・在庫管理・EC(電子商取引)といった様々な面を、継続して高く評価している。
日東紡績	グラスファイバー(ガラス繊維)のリーディングカンパニー。伝送損失を低減する低誘電特性のNEガラスはデータセンター向けに、低熱膨張特性のTガラスは半導体パッケージ向け電子基板に使用、各々拡大する成長シナリオを予想。
スミダコーポレーション	当社が手掛けるインダクティブ部品(コイルなど)は電力変換回路において欠かせない部品。電気自動車やカーボンニュートラルなど脱炭素社会のトレンドに伴って、大きな事業機会が期待。
そーせいグループ	創業ベンチャー。多くの製薬メーカーとライセンス契約を結ぶ。同社によると、製薬/バイオ企業のライセンス金額ランキング(2015年以降累計)で7位/2,397社中。2022年1月にアルファベット社の子会社Verily社(ヘルスケア分野に特化)と戦略的な提携を締結。
マネーフォワード	会計ソフト、アプリなどを提供するソフトウェア開発会社。継続的な成長に向け、法人向けサービス売上比率、ストック収益(継続的な商品サービスの提供に対する定期的な収益)比率の向上をめざす。地域金融機関やその顧客のDX推進の余地は大きく、地域金融機関経由のサービス利用拡大を図っていく方針。
Sansan	クラウド型名刺管理法人向けサービスを提供。「名刺」を会社の資産に変え→新たなビジネスに繋げ→組織の生産性を上げる、という当社のコンセプトが成功事例を伴って浸透し、名刺管理サービス「Sansan」の導入が進展。「ビジネスインフラになる」を掲げ、プロダクトを投入し邁進。
レノバ	同社の株価上昇により企業価値がおおむね株価に反映されたと判断し、2021年秋にかけ段階的にウエイトを引き下げ。2021年12月、期待されていた洋上風力の事業者に選定されず株価下落。

(出所)各社HP、各種資料を基に三菱UFJ国際投信作成

・コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。・上記は当ファンドの理解を深めていただくために記載したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

【ご参考】想定する日経平均株価水準（2022年3月31日時点）

日経平均株価の2022年の見通しは24,600円から30,500円を想定しています。

※ 日経平均株価は当ファンドのベンチマークまたは参考指数ではありません。

- ・ 前提は日経平均株価の予想PERで13倍～15倍、為替は115円～125円(1米ドル)としています。
- ・ 予想PERが15倍、125円(1米ドル)等の前提で日経平均株価は30,500円程度の水準を想定、予想PERが13倍、115円(1米ドル)等を前提とした場合では、日経平均株価は24,600円程度の水準を想定します。

為替・PER(株価収益率)水準からの日経平均株価予想 2022年度、円

(2022年3月31日時点)

	日経平均株価 予想水準			
	PER 12倍	PER 13倍	PER 14倍	PER 15倍
米ドル 110円 ユーロ 120円	21,800	23,700	25,500	27,300
米ドル 115円 ユーロ 125円	22,700	24,600	26,500	28,400
米ドル 120円 ユーロ 130円	23,500	25,500	27,500	29,400
米ドル 125円 ユーロ 135円	24,400	26,400	28,500	30,500
米ドル 130円 ユーロ 140円	25,300	27,400	29,500	31,600

・ 日経平均株価予想＝一株当たり純利益×PER(株価収益率) ・「一株当たり純利益」は運用チームの予想値
・ 上記は、運用チームの見解です。

運用担当者からのごあいさつ

当ファンドは、おかげさまで2022年3月に設定から23年を迎えました。今年は、パフォーマンスが評価され複数のアワードも獲得することもできました。どの賞も大変光栄なことですが、第7回「楽天証券ファンドアワード」*は、パフォーマンスだけでなくお客様のご支持も得て選ばれた点で、とても感慨深いものでした。「企業の成長性」に着目して銘柄を厳選するというファンドコンセプトに従い、「株価は長い目で見ればファンダメンタルズに沿って動く」というポリシーのもと、ボトムアップリサーチを続けてきたことが報われたと考えております。これからも積極的なリサーチと銘柄選定を行い、みなさまの資産形成の一助となるよう尽力してまいります。

- ・ 当ファンドの運用担当者とその肩書は2022年3月末時点のものであり、将来変更される場合があります。
- ・ 市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合があります。



三菱UFJ国際投信
チーフファンドマネジャー
小島 直人

*当ファンドは、第7回「楽天証券ファンドアワード」の国内株式部門 アクティブファンドにおいて「最優秀ファンド」に選ばれました。

当賞は、楽天証券株式会社が主催するものです。

選定基準：国内株式部門（楽天証券分類が「国内株式」）のなかでスコアランクが高いファンド（一部除外あり）のうち、楽天証券で取り扱いのあるアクティブファンド上位3ファンドが優秀ファンドとして選出されます。評価期間は3年とし、スコアランクは以下の通り算出します。1) 2021年12月末時点の3年スコアの順位と、2) 2020年1月末から2021年12月末までの1年スコア（24期間）の平均順位を合算して総合順位となるスコアランクを付与。

その中から、楽天証券のお客様投票による決選投票が行われ、最優秀ファンドが選ばれます。

当該評価は過去の一定期間の実績を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

- ・ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

【本資料で使用している指数について】

■東証株価指数(TOPIX) ■日経平均株価

本資料中の指数等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、発行者および許諾者が指数等の正確性、完全性を保証するものではありません。各指数等に関する免責事項等については、委託会社のホームページ(<https://www.am.mufg.jp/other/disclaimer.html>)を合わせてご確認ください。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

追加型投信／国内／株式

ファンドの目的・特色

■ファンドの目的

わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、「企業の成長性」に着目して厳選した「35銘柄」に主に投資を行い、東証株価指数(TOPIX)を上回る投資成果をめざします。

■ファンドの特色

特色1 わが国の株式を主要投資対象とします。

特色2 「企業の成長性」に着目して厳選した「35銘柄」に主に投資します。

・「35銘柄」に絞り込んで投資することで、全産業に投資するよりも高いパフォーマンスをめざします。また、より綿密な情報分析と継続フォローの徹底を図ります。

特色3 銘柄選定は、個別企業訪問等を通じ分析するボトム・アップ・アプローチにより行います。

特色4 東証株価指数(TOPIX)をベンチマークとし、これを上回る投資成果をめざします。

■ファンドの仕組み

・運用は主に日本株オープン「35」マザーファンドへの投資を通じて、わが国の株式へ実質的に投資するファミリーファンド方式により行います。

■分配方針

- ・年1回の決算時(3月23日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。
- ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。
- ・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動 リスク	一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。
信用 リスク	組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。
流動性 リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

■その他の留意点

- ・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。

投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

- ・ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

追加型投信／国内／株式

手続・手数料等

■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位(ただし、1万口を上回らないものとします。)／販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時まで販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。
信託期間	2024年3月22日まで(1999年3月24日設定)
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年3月23日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料 購入価額に対して、**上限2.2%(税抜 2%)**(販売会社が定めます)
(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)

信託財産留保額 ありません。

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬) 日々の純資産総額に対して、**年率1.65%(税抜 年率1.5%)**をかけた額

その他の費用・手数料 監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。
※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の6か月終了時、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。
なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会: 一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <https://www.am.mufig.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

販売会社情報一覧表

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は下記の販売会社まで

ファンド名称:三菱UFJ 日本株オープン「35」

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3283号	○	○		
いちよし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第24号	○	○		
エース証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第6号	○			
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
株式会社三菱UFJ銀行(※)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第33号	○	○	○	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○